良城小 URL：http//www.yamaguchi-ygc.ed.jp/ryojo-e/

良　城　小　学　校
学校だより４月号
児童数８２４名
平成 30 年 4 月 10 日

今年は「良城（吉敷）だからこその教育」のステップアップの年です。

校長　増　野　淳　一

本校に着任して２年目を迎えました。昨年度は、一年間を通じ、良城っ子の素直さ、真面目さ、落ち着いた生活態度にふれ、心が洗われました。とはいえ、主体性の不足などの課題も見られ、それらの育成に向け、新しい学校教育目標を設定いたしました。

本年度は、いよいよ目標の達成に向けた年となります。１６人の新しい教職員を迎え、総勢６９人のスタッフにより、全力で「良城（吉敷）だからこそ」の学校教育を進めて参りますので、どうぞよろしくお願いいたします。

本年度の重点的取組は以下の５点です。

①新しい教育目標の達成に向けた良城（吉敷）だからこその取組の組織的な推進
②良城しぐさ（美礼時を始めとしたこれまでの本校教育のよさ）の発展
③コミュニティ･スクールとしての取組の日常化と小学校だからこその地域貢献の推進
④校務分掌プロジェクト・同学年組織による日常的な人材育成の推進
⑤図書館を活用した学習の在り方の研究を通した授業改善の推進

①総括的な取組です。知徳体（本校では、あえて徳知体）の様々な場面において、他のどこでもない、ここ吉敷地域だからこその特色ある教育を進めて参ります。新教育目標の根幹です。

学校では、担任業務以外に、校内の様々な分野の業務を分担する「校務分掌」という業務があります。新年度からは、この校務分掌を「学力向上プロジェクト」、「優しい心育成プロジェクト」「健康安全推進プロジェクト」の３つのブロックに分け、各プロジェクトリーダーが中心となって具体的な取組を進めて参ります。

②昨年度は、これまでの良城小の教育の良さを「良城しぐさ」として明文化してきました。ここ数年来、職員が大きく入れ替わっていますが、これまでの良さを新旧の全員が意識して継承しくことはもちろん、さらに新しい次の手を打っていき、そのよさをさらに高めていくことを求め「発展」としています。これまでにお話ししてきたように、良城しぐさは、学校だけの宝ではありません。家庭、地域での取組に発展させて、「吉敷しぐさ」として地域の自慢にしていきたいと考えています。

③新目標のポイントは、地域と共にある学校づくりです。コミスクとしての取組を「日常化」していきます。これまでも「昔遊び」など地域の方々に来ていただく取組がありましたが、「行事」としての一過性の取組でした。これらを少しずつ日常化させ、児童が学校に登校する月～金曜日の間に地域の方々であふれるような学校にしていきたいと思います。多くの方々が日々、気軽に訪れ、子供達とふれあい、共に学び元気になってもらえる学校になることこそが、小学校だからこその地域貢献であると考えます。

④本県では、教職員の若返りが著しく進んでいます。本校でも２０代の職員が一気に増えています。若手職員は学校全体にとても良い刺激を与え、活気があふれます。しかし、良城だからこその教育の推進のためには、経験の浅い若手を育てていかなければなりません。私も含め、ベテランや中堅が、「人材育成」を強く意識していく必要があります。校務分掌や同学年の中で、人材育成をより進めて参ります。特に、同学年での人材育成こそが、良城小職員の「良城しぐさ」です。各学年のチームプレイにご期待ください。

⑤来年１１月７日に、図書館教育中国大会の授業公開が本校で行われます。本校は図書館が大変充実しており、子供達も本が大好きです。大会の引き受けにより、さらに図書館を活用した教育の在り方の研修を深め、児童の主体的な学習意欲や豊かな情操を高めて参りたいと思います。